



NO. 44 (通算44)

絵・文・題字 渋谷 一夫

カッコウはずるい

5月10日からバードウィーク、愛鳥週間だ。野鳥たちも求愛・産卵・抱卵・子育ての時期で忙しい。そんな多忙な中、カッコウ、カッコウと、のんびり美声をあげて、空き巣を狙っている野鳥がいる。さえずり通りのカッコウだ。では、何故、空き巣を狙うのか暴いてみよう。

野鳥の止まり木

この老木は、野鳥にも重要な存在だった。野鳥の棲み家でもあり、渡り鳥や漂鳥の一時的止まり木でもあったのだ。

た。多忙な時期に、何故のんびりしていたのかな。



託卵するカッコウ

悪賢いずるいやり方だね。普通の野鳥は、まず巣作りをして卵を産む。そして卵を抱いて温め孵化させる。生まれたヒナには餌を運び育て上げる。だが、カッコウはそれをしていない。卵は産みっぱなしだ。卵は温めないとかで死んでしまう。そこで「託卵」という習性が生まれただろう。野鳥の親はお人好しだね。だが不思議なのは、カッコウの卵が先に孵化することだ。先に生まれたカッコウのヒナは、ほかの卵を全部放り出し野鳥の親を独り占めしてしまうことだ。何と悪知恵の働くヒナだろう。この託卵の被害を受ける野鳥は、多種にわたっている。ウグイスをはじめアオジ、ホオジロ、モズ、キセキレイ、オオヨシキリなどだ。

何故、託卵する…？

野鳥は定温動物だ。体温は40から43℃位だ。だがカッコウは夜になると体温が下がってしまい卵を温められないのだ。だから、ほかの野鳥に託するようになったという説がある。本当だろうか。

南畑公民館の南に金蔵院というお寺がある。ここには、かつて樹齢数百年の杉の老木があった。高さ20メートルもあり「大杉」と呼ばれていた。鶴瀬・水谷方面からも見える南畑の象徴的老木だった。

南畑公民館の南に金蔵院というお寺がある。ここには、かつて樹齢数百年の杉の老木があった。高さ20メートルもあり「大杉」と呼ばれていた。鶴瀬・水谷方面からも見える南畑の象徴的老木だった。

カッコウは、産卵はするが抱卵や子育てはしない。巣作りもしないという。怠け者だね。じゃ、どこで卵を産み、どこで子を育てるのだろうか。「託卵」というずるいやり方があるのだ。他の野鳥の空き巣に産卵し、その親に世話をさせるのだ。

